

5 町の不動産情報制度
(空地空家バンク制度)

(1)事業内容等 安平町内の土地や中古住宅等を所有している方で、売却や賃貸等を希望する方の物件情報を登録し、購入希望者等への情報発信を行い定住を促しています。

(2)事業開始年度 H19年度

6 本州方面からの移住や交流人口の促進事業

北海道への憧れはあるが、見知らぬ土地への不安や心配もある。

そういった本州方面からの移住希望者を主な対象とし、事業を行っています。

(1)おためし暮らし事業

(移住体験事業)

①事業内容等 移住を検討されている方を対象に、1週間〜3カ月間ほどの期間を安平町で移住体験してもらい、安平町を移住先の候補地として検討してもらいます。

②その他 体験者の方々は滞在中に町内の分譲地や宅地、中古物件を見て回ったり、町内での買物や飲食、スポーツ施設の利用などでアクティブに動かれています。

おためし暮らし事業の利用状況

年度	体験者数	滞在日数
H19 ～ H21	53名 (20組)	302日間
H22	16名 (7組)	213日間



おためし暮らし住宅内部

(2)移住体験ツアー事業

①事業内容等 長期滞在者向けの「おためし暮らし事業」に参加できない方に安平町を知ってもらうよう、2泊3日程度の短期的な安平町移住体験ツアーを実施し安平町を身近に感じてもらうながら、将来的に安平町を移住候補地の

1つとして検討してもらいます。

体験ツアーでは、先輩移住者や現在住者との交流の場を設けたり、体験プログラムを取り入れながら、移住への不安や移住について実現的な感覚を持ってもらうことを目的としています。

②事業開始年度 平成23年度

7 各分野での事業に伴う人口確保

①教育環境の整備(自然体験学習、生涯学習フェスティバル、スポーツ施設の整備)

②シニア世代への支援など 水中運動教室等の体力づくり事業、足腰しゃんしゃん運動教室、各種生活支援施設の整備・誘致など

③工業団地の特別販売(平成26年度までのキャンペーン)

工場や事業所の進出に伴う雇用の確保及び人口確保

④住宅用太陽光発電システムの設置助成事業

環境への不可の少ない太陽光エネルギーを利用する住宅用太陽光発電システムの設置を促します。

現状と課題について

これまで、人口確保策や少子化対策等の新しい施策事業を盛り込みながら事業を実施しています。

しかし、全国的な問題として都市部への人口流出や一極集中化、少子高齢化といった問題が顕著となり、当町においても大きな課題となっております。

定住には、子育てや教育、健康づくりから福祉に至るまでの環境が大変重要な要素となります。

そのため、町の最重点課題である「定住化施策」については、子育て・教育・福祉・介護等のほか、新規就農や新規起業、企業誘致など、いろいろな分野や部署との連携が重要であり、定住希望者・移住希望者のニーズを整理しながら、人口減少の歯止めがかかる事業に取り組んでいきます。

移住者の紹介

認定司法書士の資格(経験)を活かし地域で開業することなどを促す日本司法書士会連合会の制度を活用して、東京から1人の方が本年2月に安平町に移り住みました。

「もともと馬が好きで北海道に憧れを持ち、親類の住む東京とのアクセスが良い点も選んだ理由です」と話すのは添谷信隆さん。

認定司法書士として生活の基盤を作り、定住する覚悟で移住してきたそうで「地域の方と良い付き合いをさせてもらっています」と町のイメージも好印象のようです。

町の魅力を自分で感じて移住してきた貴重な方として、町では今後の対策への協力者さんとしても定住者になることを願っています。



添谷信隆さんとして定住者になることを願っています。



ラ・ラ・タウン住宅街